

NPO・市民活動団体紹介のページ

“箱館写真”の会

■活動の目的

ペリーとともに箱館にやってきた写真。函館には江戸時代からの写真が多く残されています。それらの写真を見せる・知らせることで、写真の中に潜む函館の歴史を知ってもらう、それがこの会の目的です。



土方歳三  
[明治2年頃撮影]



松前崇広  
[慶応元年～2年(1865～1866)頃撮影]

■今までの活動

「箱館写真の時代」というシリーズで、これまで5回の写真展を、まちづくりセンターを会場として開催しました。

ペリーが撮影して残していった3枚の写真



奉行石塚官蔵と従者



松前藩家老松前勘解由と従者



用人遠藤又左衛門と従者

※掲載5点の写真は、いずれも函館市中央図書館所蔵の写真および複写物のコピーです。

■これからの活動

「箱館写真の時代」の展示会は、市民みなさんの家庭内に眠っている、まだ見ぬ写真をも探しています。あなたの家の古い写真をお見せください。あなたが気付いていない、ちょっとしたものが写っているかもしれません。複写した後、写真はお返しいたします。

「箱館写真の時代」の展示会は、これからも年に数回行う予定です。

ペリー艦隊の写真師や、田本研造をはじめとする箱館の写真師たちのものから、市民のアルバムの写真、そして絵葉書まで、多岐に渡っています。図書館や博物館だけでなく、市民の皆さんも、古い函館の写真がたくさんお持ちです。そんな写真を皆さんに見せるという活動を続けていきます。史料価値の高いものは、函館ばかりでなく、日本中あるいは海の向こうの外国にも見せたいと思っています。明治時代のパノラマ写真はぜひ一度は外国で展示したいと思っています。その手始めとして来年、まちセンでパノラマ展を行う予定です。



11月の写真展「札幌本道と大沼公園」の展示風景

“箱館写真”の会

■代表者／野戸 崇治

■会員数／5名

■電話／090-7229-0894

■メール／belfun01@gmail.com

## NPO・市民活動団体紹介のページ

# 択捉島水産会

「函館市択捉町」時代の  
 択捉島水産資料の収集、  
 広報を行っています

### 活動の目的

北方四島で最も大きい択捉島は、昭和20年の終戦まで、函館の経済圏で発展し漁業家の進出や物流が活発でした。本会は、そうした時代からの択捉島の水産資料の収集・保全・広報活動が目的です。



択捉島の面積は、3184平方キロメートル  
 (沖縄本島のおよそ2.5倍の大きさ)

### 団体のPR

(目的の詳細・今までの活動内容など)

昭和16(1941)年5月、市立函館図書館において、同館と択捉島水産会の共催で「択捉島資料展覧会」が開催されました。寛政12(1800)年、高田屋嘉兵衛が箱館

を拠点として択捉島の漁場を開拓して以来、江戸時代の幕末〜明治〜大正時代を通じて、昭和20(1945)年8月の終戦まで、同島は函館の経済圏で漁業家の進出や物流が活発でした。択捉島から函館へ漁獲物を、函館から同島へは、漁業資料・生活用品の運搬を行っており、函館経済界は択捉島の発展に大きく貢献しました。

当時は「函館市・択捉町」の異名で呼ばれていたほど、同島と函館はゆかりが深かったのです。

資料の調査収集活動として

- ① 函館市中央図書館での資料調査
- ② 道立文書館で資料調査
- ③ 金森商船株式会社で資料収集



択捉島シベトロ村  
 駒井漁場  
 [昭和8(1933)年5月]



択捉島水産会  
 所蔵の写真より  
 「鮭・鱒漁獲作業の様子」

### 「これからの活動

『択捉島と函館のつながりを知る集い』

とき／平成26年2月中旬開催予定

場所／函館市地域交流まちづくりセンター

**入場無料**

『択捉島水産資料(史)料展』

とき／平成26年8月中旬開催予定

場所／函館市中央図書館

**入場無料**



平成25(2013)年7月撮影  
 択捉島の名峰 散布山(ちりっぶやま)  
 標高1587m

### 「会員募集・会費などについて

択捉島の水産資料や同島と函館との歴史的つながりに関心のある方は、ご入会ください。

年会費／2,000円

連絡先／0138-23-2320

(事務局 駒井)

## 択捉島水産会

■代表者(事務局)／駒井惇助

■連絡先／0138-23-2320

■会員数／86名